

パネルの文言だそうです。ネット上でも「なぜ伊那市が?」「伊那市にはアーティストが育つ土壤がある?」と話題になったとか。

思い返すと。伊那にいた頃は、好きなように歌ったり楽器を弾いていました。

私の生家は、周りが田んぼか畑。ピアノ、ギター、三味線等をかき鳴らしてもご近所からクレームを受けたことはありません。

いま住んでいるマンションは、時折「大音量の音楽や楽器の演奏はお控えください」と警告があります。楽器を弾くのに有料のスタジオを借りるなんてよくある話。“音”を“楽”しむにはだいぶ窮屈です。

誰にも気兼ねなく、思いきり歌える・弾ける…そんなのびのびとした環境が伊那発アーティストの土壤になっているのかもなあと嬉しく思いながら、私は久々にロールピアノを引っ張り出し奏でてみました。もちろん、音量はミニマムで(苦笑)。

(株式会社キャラウィット代表取締役)



遠い伊那の景色

神沼 靖子

伊那を離れて60年あまり、もう80才を越えました。この間に多くの人に出会って、いろいろなことを学びました。Take and Giveの日々でした。思い出すのは遠い昔の景色ばかりです。一時間あまりかけて通った小学校への往復路は、冬になると身長を越えて雪のトンネルになっていました。それはそれで、楽しい思い出になっています。

我が家は一軒家でしたので、自然を相手に野山で遊ぶことが多かったのです。今はどうなのかしらと、勝手に想像しています。

春から秋にかけての自然は多様に変化していることでしょう。

話は変わりますが、昭和31年の3月に弥生ヶ丘高校を卒業した私は、東京理科大学の数学科に入学するために上京しました。4年後に卒業し、企業に2年間ほど勤務したあと横浜国立大学工学部の助手として6年間余りを過ごしました。

その後、帝京技術科学大学の助教授、前橋工科大学の工学部教授、などを歴任して、定年を迎えました。

現在も所属している学会として、情報処理学会、情報システム学会、数学会、応用数理学会、応用統計学会、経営情報学会、AIS、ACMなどがあります。これらは学びの場です。

社会活動としては、高専プログラムコンテストなどがあります。執筆活動としては、「情報システムの計画と設計(培風館)」「基礎情報システム論(共立出版)」「情報システム基礎(オーム社)」「プロジェクトの概念(近代科学者)」など30冊を越えました。そして現在は、読書に明け暮れる日々を過ごしています。

(元大学教授)